

国立国会図書館



第51回貴重書等指定委員会報告 重要文化財指定資料紹介

小野蘭山関係資料

国立国会図書館にない本（続編） 戦前・占領期の雑誌を求めて2

What's 書誌調整 ふたたび 第6回 いろいろな資料

関西館の地域連携を目指す取り組み ビジネス情報月間「イノベーションについて考える」を中心に

2016.7
No. 663

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
資料請求受付★	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。	後日郵送複写受付★	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み/国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求受付★	月～土曜日 10:00～17:15	後日郵送複写受付★	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	★登録利用者限定のサービスです。	

■見学のお申込み/国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※児童書研究資料室は、システムメンテナンス等のため臨時休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00			
児童書研究資料室の資料請求受付	火～日曜日 9:30～16:30			
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日郵送複写受付	火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00	13:00～16:30	

■見学のお申込み/国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

C O N T E N T S

- 02 戦時畫報 第一次世界大戦時の英国の対日宣伝紙
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 04 第51回貴重書等指定委員会報告 重要文化財指定資料紹介
小野蘭山関係資料
- 12 国立国会図書館にない本 (続編)
戦前・占領期の雑誌を求めて2
- 17 What's 書誌調整 ふたたび 第6回 いろいろな資料
- 20 関西館の地域連携を目指す取り組み
ビジネス情報月間「イノベーションについて考える」を中心に

- 16 館内スコープ
布川文庫の有効活用をめざして

- 24 TOPIC
○国際子ども図書館リニューアル記念講演会「イギリスの絵本作家エミリー・グラヴェット——絵に生きる」
○『参考書誌研究』第77号刊行—特集「日本占領関係資料収集の歩み」・『発禁図書函号目録』—

- 28 本屋にない本
○『〇型ロボット漫画』

- 29 NDL NEWS
○「第四期国立国会図書館科学技術情報整備基本計画」の策定

- 30 お知らせ
○利用者アンケートご協力をお願い
○平成28年度全国書誌データ・レファレンス協同データベース活用研修会のご案内
○本の万華鏡(第22回)「日本の囲碁—白と黒の戦い—」
○国際子ども図書館展示会「世界のバリアフリー絵本展2015—国際児童図書評議会2015年推薦図書展」
○新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

戦時畫報

第一次世界大戦時の 英国の対日宣伝紙

林 瞬介

『戦時畫報』

[1916] <請求記号 Z98-59>

第49号 大正8(1919)年2月20日発行 58cm

「同盟の現実：英米の僚友と愉快なる会合を為しつつある日本水兵」と題された巻頭写真。大戦末期には、アメリカが連合国側に参戦し、日本も海軍艦艇を欧州に派遣して英仏の支援を行っていた。



100年前、世界は戦争の真ただ中であつた。1914年にバルカン半島で始まった局地的な紛争は瞬く間に世界各国を巻き込み、第一次世界大戦に発展していた。

もともと、第一次世界大戦の本来の構図は欧州におけるドイツ陣営（同盟国）と英仏陣営（連合国）の対決であつたから、大戦前半における主戦場は欧州からロシア・中東までに留まっていた。欧州域外の大国であるアメリカは中立を維持しており、日本も連合国側に参戦はしたものの、アジア・太平洋のドイツ植民地を占領しただけであつた。これらの国々の国民世論にとって、大戦とは遠い欧州の激戦であつて、欧州にまで出兵することは考えられなかつた。

同盟国・連合国両陣営は、戦争を有利に進めるために、こうした国々の国民世論に対して、自陣営の正当性を訴える宣伝（プロパガンダ）を積

極的に行う必要があつた。宣伝においては言論だけではなく、写真を多用してデザイン性を高めたグラフ誌、臨場感あふれるニュース映画など、最先端のメディアが駆使された。

大戦開始とともに外国世論の誘導を意識したニュースの配信を大々的に行い、プロパガンダで先行したのはドイツである。英国のロイド・ジョージ大蔵大臣（のち戦時内閣の首相）はこれに危機感を抱き、ドイツの宣伝工作に対抗して英国の戦争の正当性を宣伝する機関の設立を構想した。

英国の戦争宣伝機関は、内閣直轄の下にランカスター公領大臣（無任所閣僚）マスターマンをトップとして組織された。この機関はマスターマンが委員長を務める国民保険委員会の事務所内に密かに設置されたために、事務所の置かれていた建物の名前を取って「ウェリントンハウス」の通称で知られる。



「独軍より獲得せし塹壕内に休止しつつある英軍装甲車（タンク）」
 (第39号(大正7(1918)年9月20日発行)巻頭より)
 戦車は第一次世界大戦で英国が初めて開発した最新兵器であった。



インド諸語版。ウルドゥー語、ヒンディー語、パンジャービー語の併記で、主に植民地インドの現地軍の活躍を紹介する。
 <請求記号 Y752-SN-2 (関西館所蔵) >

ウェリントンハウスに与えられた任務は、諸外国の国民世論に英国の戦争目的の正義を訴えかけ、さらにインドやオーストラリアなどの英国植民地の人々に対して本国への積極的な支援を促すことであった。

ここで紹介する『戦時畫報』は、ウェリントンハウスが発行していた日本語の写真新聞である。この新聞の創刊は今からちょうど100年前の1916年秋。この頃、フランスのソンムで行われた決戦も勝敗が定まらず、戦況は停滞して、中立国の参戦や消極的な参戦国の増援が求められていた。

『戦時畫報』は、英国の著名な写真新聞社であるイラストレイテッド・ロンドン・ニュースの全面的な協力を得て、月2回ロンドンで印刷された。各号は4ページから8ページ程度で、主に欧州戦線で戦う英国軍の写真が掲載され、写真に添えられた解説では英国がドイツの占領地を解放する正

当な戦いを有利に進めていることが強調される。

大戦中期から後期にかけて、日本語の『戦時畫報』と同様に宣伝を目的とする新聞は、中国語、マレー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、ギリシャ語などさまざまな言語で出版されており、当館は日本語の他にはインド諸語版を所蔵している。

第一次世界大戦は世界最初の総力戦であると同時に、各国がメディアの影響力を競い合ったプロパガンダの戦争でもあった。ウェリントンハウスは大戦下で組織を拡充し、1918年には情報省へと発展する。それだけ戦争遂行における宣伝の役割が重要性を増していたとも言えよう。

対外宣伝の役割は、第二次世界大戦において、より強く世界各国に認識されることになる。

(はやし しゅんすけ

調査及び立法考査局議会官庁資料課)

○参考文献

M.L. Sanders.
 Wellington House and British Propaganda during the First World War.
The Historical Journal.
 18(1) 1975.3. pp.119-146.

※『戦時畫報』は英国図書館がデジタル化しており、インターネット上で全号を閲覧可能です。

http://www.bl.uk/manuscripts/Viewer.aspx?ref=mss_eur_g11712_f001r

重要文化財指定資料紹介

小野蘭山関係資料



らんざんおうがぞう
(1) 蘭山翁畫像

<請求記号 WA1-10-1>

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1288400>

谷文晁 筆 小野蘭山 [賛] [文化6年(1809)] 1軸
大きさ166.5×39.8cm (本紙95.2×34.2cm、賛22.5×31.4cm)

書名は箱貼付題による 賛は別紙貼り付け 箱入 落款に「門人谷文晁沐手敬繪」とあり 落款印に「文晁」とあり

国立国会図書館が所蔵する本草学者小野蘭山(1729-1810)に関する資料の一部が、「小野蘭山関係資料」として、平成27年3月13日の文化審議会答申に基づき、同年9月4日付けで重要文化財に指定された¹。これにより、当館所蔵の重要文化財は10件となった。当館においても平成28年1月20日、第51回貴重書等指定委員会において、同資料を集書「小野蘭山関係資料」として貴重書に指定した。これらに伴い、集書を構成する各資料の請求記号もWA1-10-1～WA1-10-11に変更した。

「小野蘭山関係資料」は、平成13年7月24日、蘭山の直系の子孫にあたる小野強^{つよし}氏から当館に寄贈された資料²のうち、蘭山の自筆資料や、蘭山と同時代に作成されたもので活動を知る手掛かりとなるものなど、蘭山を研究する上で重要な11点の資料(タイトル・タイトル数は当館の書誌による³。排列は当館書誌の分類による。)から成る⁴。

- (1) 蘭山翁畫像 (請求記号 WA1-10-1 旧請求記号 WA21-29)
- (2) [小野蘭山書] (請求記号 WA1-10-2 旧請求記号 YR1-N19)
- (3) [小野家系図] (請求記号 WA1-10-3 旧請求記号 W194-N6)
- (4) [小野蘭山公勤日記] (請求記号 WA1-10-4 旧請求記号 W221-N32)
- (5) 御用畱 (請求記号 WA1-10-5 旧請求記号 W221-N33)
- (6) 本草綱目草稿 (請求記号 WA1-10-6 旧請求記号 WB9-10)
- (7) 誓盟状 (請求記号 WA1-10-7 旧請求記号 WB9-9)
- (8) 衆芳軒隨筆 (請求記号 WA1-10-8 旧請求記号 W391-N28)
- (9) 蘭山先生秘傳花鏡譯 2巻 (請求記号 WA1-10-9 旧請求記号 W391-N35)
- (10) 魁本大字諸儒箋解古文眞寶 後集 2巻
(請求記号 WA1-10-10 旧請求記号 W825-N1)
- (11) 文章軌範 正7巻續7巻 (当館請求記号 WA1-10-11 旧請求記号 W825-N2)

小野蘭山が学んだ本草学は、本来は中国から移入された薬物学のことであるが、江戸時代の日本においては、中国書に掲載された産物と和産品との比較・同定が必要となるなかで、形状・性質・名称など幅広い内容を対象とする博物学的な研究へと変容し、近代自然科学に通ずる側面を持ったとされる。本稿では、このような日本的な本草学の「一つの頂点」とも評価される小野蘭山の生涯を辿りつつ「小野蘭山関係資料」を紹介したい。

今回紹介する各資料は、「国立国会図書館デジタルコレクション」(<http://dl.ndl.go.jp/>)でご覧いただけます。

国立国会図書館は、蔵書のうち、特に注意して取り扱うべき重要な資料を「貴重書」「準貴重書」と定めています。平成28年1月20日、「小野蘭山関係資料」11点を貴重書に指定し、累計で貴重書は1,292点、準貴重書は794点となりました。「小野蘭山関係資料」のうち1点は既に貴重書に、2点は準貴重書に指定されていたが、集書として全11点が貴重書に指定された

小野蘭山は、本姓を佐伯、諱を職博^{もとひろ}、通称を喜内、字を以文、号を蘭山^{きゅうほうし}、朽匏子という。享保14年(1729)、地下官人(朝廷の下級役人)の次男として京都に生まれた⁵。

「小野蘭山関係資料」中に含まれる、蘭山の家系を示す資料としては(3)『小野家系図』^{おのけけいず}がある。小野職秀(蘭山の兄⁶)までの系図(「当流嫡庶尊卑分脈図」)と履歴を記したものであるが、系図部分は職博(蘭山)から小野職愨(蘭山の4代後)まで追記をしている⁷。職秀が当主だった時代に作成されたものであろう。蘭山の家系を知る上で、基本的な資料である⁸。

修学期

元文4年(1739)にわずか11歳で陳扶揺『秘伝花鏡』⁹を全巻手写するなど「少ヨリ本草名物ノ學ヲ好¹⁰」んだ蘭山は、寛保元年(1741)、13歳で本草学者松岡恕庵(1668-1746)に入門し、延享3年(1746)、18歳の時に恕庵が没するまで、そのもとで本草学を学んだ。恕庵没後は他の師を持たず、独学で本草学を学んだという。

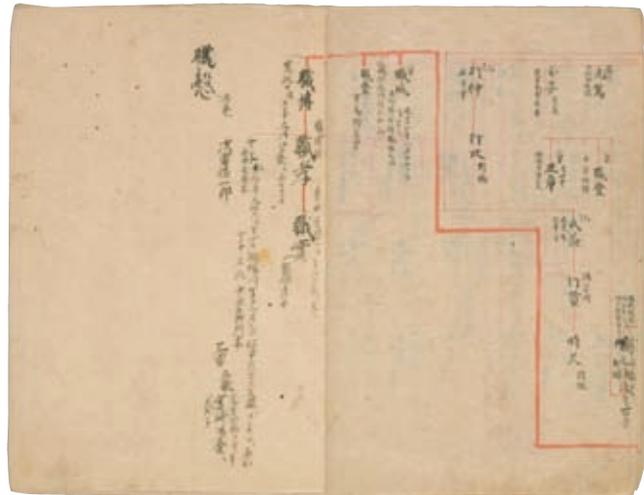
本資料群には、この頃の書入れを含む(11)『文章軌範』^{ぶんしやうきはん}正7巻續7巻がある。『文章軌範』は中国において科学受験者のために作成された名文集で、日本には室町時代末に伝来して以降、漢文作成の模範として用いられてきた。本書には、墨筆・朱筆で、幾度にもわたる多数の書入れがみられる。そのすべてを蘭山自筆と断定することはできないが、特徴的な文字をもとに確認すると、多くは蘭山の筆跡と思われる。第4冊末尾には、蘭山自筆と思われる筆跡で「墨以南郭本写焉、時寛延己巳六月十八日」とあり、墨筆の書入れの一部は寛延2年(1749)頃のものと考えられる¹¹。付された紙帙にも孫養子である蕙畝(後述)の筆跡で「本文章軌範ハ蘭山筆入本ニシテ秘藏セシモノナリ」とあり、小野家で大切に扱われていたことが分かる。なお、同様に蘭山自筆と思われる

(3) [小野家系図]

<請求記号 WA1-10-3> <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9368665>

[江戸時代後期] 写 1冊 大きさ24.5×17.4cm

書名は仮に付す 仮綴 付属資料:1枚(32.5×44.7cm) 伴佐伯両氏由来之契



職博(蘭山)以下を追記した部分



第4冊巻末



紙帙裏の識語

(11) 文章軌範 正7巻續7巻

<請求記号 WA1-10-11> <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9367081>

(宋) 謝枋得 批選、(明) 李廷機 評訓(正編); (明) 鄒守益 批選、(明) 焦竑 評校、(明) 李廷機 註闕(統編) 京師 植村藤右衛門 [ほか] 正徳5年(1715) 4冊 大きさ26.1×17.9cm

書名は第1冊見返しおよび序題による 第1冊、第2冊、第4冊は仮綴 巻末刊記「京師書林 武村新兵衛(ママ) 林久次郎 植村藤右衛門 正徳乙未年杉生五郎左衛門 土川宇平合彫」、底本刊記「萬曆新春孟秋月穀旦熊冲宇發行」 墨筆・朱筆の書入れ多し 紙帙上書「蘭山書入 正續文章軌範 四冊」、同小口書「正續文章軌範」、同帙裏「本文章軌範ハ蘭山筆入本ニシテ秘藏セシモノナリ」、第4冊奥書「墨以南郭本寫焉時寛延己巳六月十八日」とあり 印記:「春雄」(小野春雄印)



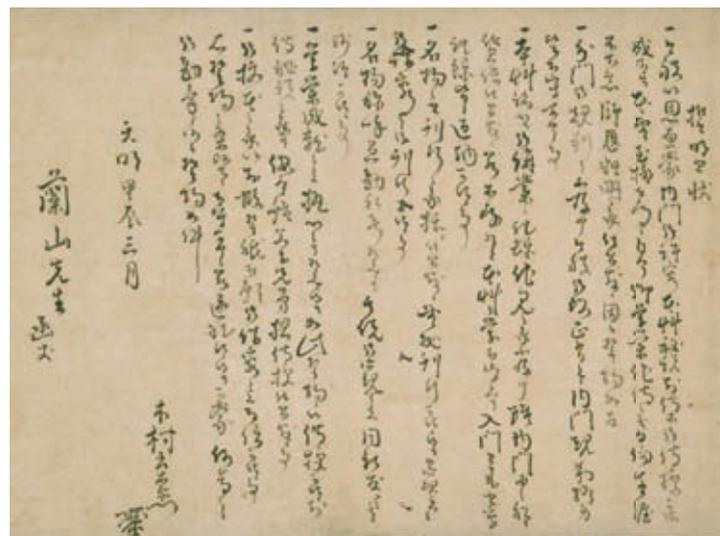
かいほんだいじしよじゆせんかいこぶんしんぼう
 (10) 魁本大字諸儒箋解古文眞寶
 後集2巻

<請求記号 WA1-10-10>
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9366479>
 [(宋)黄堅 輯] [出版地不明] 山田市郎兵衛 寛文
 10年(1670) 2冊 大きさ27.2×18.8cm
 序題「古文眞寶」 目録題「諸儒箋解古文眞寶後集」
 仮綴 表紙欠 刊記に「寛文十壬戌歳正月吉旦」とあり
 朱筆・墨筆の書入れ多し

序首



巻頭



せいめいじょう
 (7) 誓盟状

<請求記号 WA1-10-7> <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1288416>
 木村吉右衛門(木村兼葎堂)自筆 天明4年(1784) 1軸 大きさ90.0×48.0cm(本紙
 30.0×40.0cm)
 書名は内題による 外箱墨書「兼葎堂木孔恭自筆誓盟状」 掛軸 箱入 小野蘭山宛
 の部分に虫損あり

る筆跡の書入れが多数みられる資料として(10)『魁本大字諸儒箋解古文眞寶』後集2巻もある。『古文眞寶』は中国の戦国時代から宋までの著名な詩(前集)・文(後集)を集め、ジャンル別に分類した文献である。同書も室町時代初期に日本に伝来して以来、広く読まれたものである。

京都衆芳軒時代

宝暦3年(1753)、蘭山は25歳で京都河原町通夷川上ルに借家し、私塾衆芳軒を開いた。10年後の宝暦13年には、島田充房による作業を引き継ぎ、日本初の植物図鑑とも評される『花彙』を執筆し、翌々年(明和2年(1765))刊行している。京都衆芳軒時代の蘭山のもとには、その名声を慕って多くの門弟が集まったという。そのなかには、小原桃洞、水谷豊文、山本亡羊、木内政章などの本草家が含まれていたが、なかでも最も著名な人物は木村兼葎堂(1736-1802)であろう。

文人として著名な大坂の富商の木村兼葎堂は、本草学に関しても幼少から関心を持ち、宝暦元年(1751)、16歳で京都の津島桂庵(1701-1754)に入門、蘭山には安永8年(1779)に入門したと推定されている¹²。さらに、天明4年(1784)3月、49歳で蘭山から内門(上級の弟子)を許された。その際に蘭山に提出した誓約書が(7)『誓盟状』である。兼葎堂は蘭山に対し、講義の記録を他に見せない、内門同士でも講義記録の貸借をしない、学業をやめる際は講義記録や写本を返納する、「名物之書」は許可なく刊行しない、などを誓約している。蘭山の学塾の規則を知ることができる基本的な資料といえる。

蘭山は、衆芳軒で「四方之書生懇望ニ付、不得已して会読を始め¹³」たという。会読で用いたテキストは、李時珍(1518-1593)『本草綱目』¹⁴・貝原益軒(1630-1714)『大和本草』・陳扶揺(1612-?)『秘伝花鏡』等が知られている。

なかでも『本草綱目』の講義は、聴講が外門から内門に上がる際の条件になっていたことから分かるように、蘭山の重視するところであった¹⁵。京都の衆芳軒や、後に幕府の医学館でも、繰り返し講義を行っていたことが確認できる。そのような講義のために、蘭山が自筆で記した覚書とされる資料が(6)『**本草綱目草稿**』である¹⁶。『本草綱目草稿』は、2種類の覚書から成るが、先に作成された覚書は宝暦7年(1757)10月頃に完成し¹⁷、再度作成された覚書も宝暦13年頃には完成したとされる。だが、その後も朱筆や墨筆で関連する知見を書入れて増補しつづけた。書入れは余白だけではなく、袋とじの袋を切った裏面、挟み込まれた紙片にまで及ぶ。内容は翻訳したものではなく、『本草綱目』の項目に従って動植物などの形状や日本における名称・方言などについて記したものである。

「蜻蛉」の項目をみてみよう。たとえば、「シヲカトンボ(桑名) クワナ(朱筆) 小ニシテ黒ク白糝アリ、岡山ニシヲト云 身ニ灰ト黒ト横斑アルヲシヲカトンボト云、イヨイマバリ」とある。あるいは、「赤卒 アカトンボウ 赤弁使者 アカトンボ 江戸アカエンバ」ともある。このようなメモが各項目に延々と記されているのである。博物学に通ずる側面を持っていたということが一目瞭然ではなからうか。磯野直秀氏によれば、最も新しい書入れは「伏翼」(コウモリのこと)の項目の「文化丁卯九月四日神田新橋詰民家壁間ヨリ伏翼ヲ逐出事(後略)」である由である¹⁸。「文化丁卯」とは文化4年(1807)のこと。およそ半世紀にわたり、『本草綱目』に掲載されている項目について形状・名称等の情報を蓄積した本書は、まさに蘭山の学問の根幹を示す資料といえる。

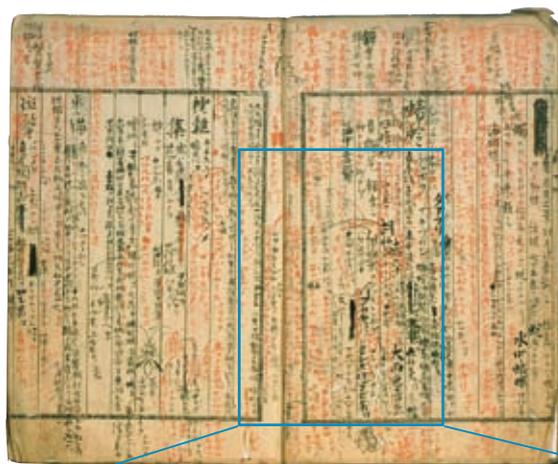
なお、本書には弟子である村松標左衛門宛ての書簡の下書(「小野蘭山寛政七年書簡下書」)が添付されている。この書簡には、師松岡恕庵の教えについて「繁業故、山野へ書生を召連レ品物を教之暇なし(中略)、漢名ニハ切紙折紙

ほんぞうこうもくそうこう
(6) **本草綱目草稿**

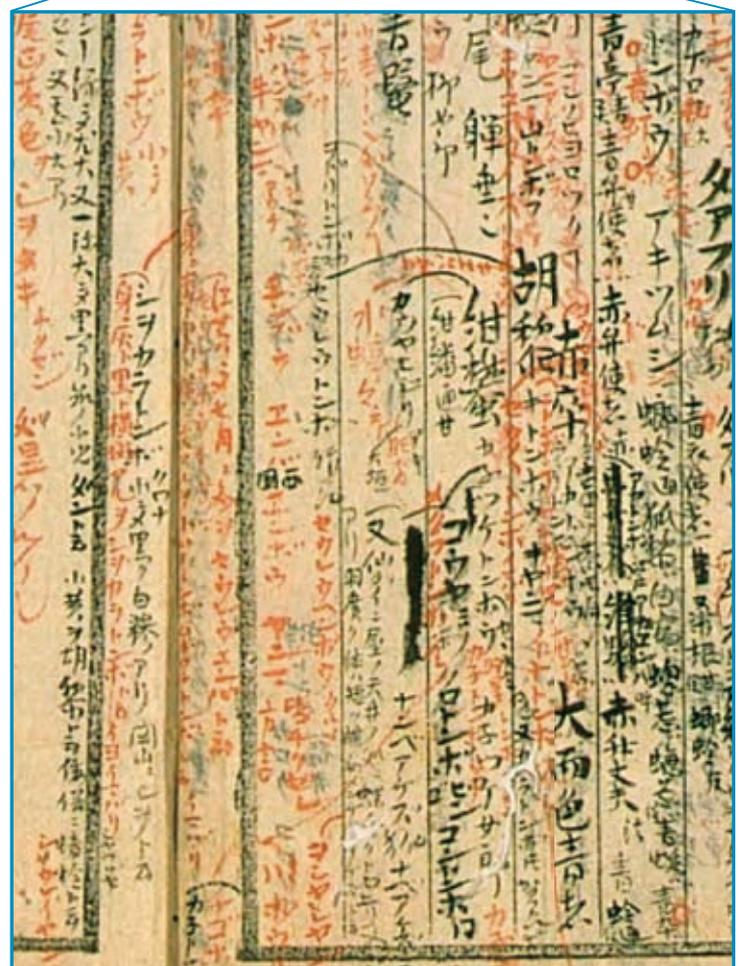
<請求記号 WA1-10-6> <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1287047>

[小野蘭山] 自筆 [江戸時代中・後期] 4冊 大きさ23.7~24.8×16.8~17.1cm

書名は第1冊下小口付箋による 第3冊は康熙綴 付属資料:1通(15.6×79.9cm) 小野蘭山寛政七年書簡下書(寛政7年5月24日付、小野蘭山自筆) 袋綴じの折り目を切り離した料紙裏面も含め、夥しい書入れあり 付箋336点、腊葉17枚を付す 虫損多し



第4冊「蜻蛉」部分



らんざんせんせいひでんかきょうやく
(9) 蘭山先生秘傳花鏡譯 2卷

<請求記号 WA1-10-9> <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9368666>
 [小野蘭山 述] [江戸時代後期] 写 1冊 大きさ23.8×16.8cm

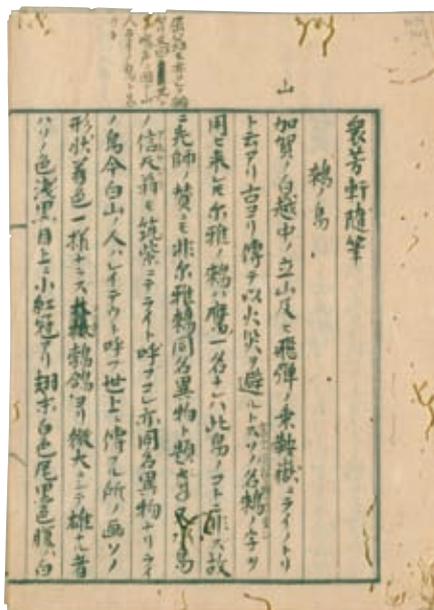
外題「花鑑譯」 卷上:「花木類攷」「藤蔓類攷」「花草類攷」(『花鏡』卷3~5)、卷下:
 「養禽鳥法」「養獸畜法」「養鱗介法」「養昆蟲法」(『花鏡』卷6) 「文化丙寅仲秋念一
 日丹波元堅藏儲」と奥書あり 印記:「長□豊田□野藏書」



巻頭

しゅうほうけんずいひつ
(8) 衆芳軒隨筆

<請求記号 WA1-10-8> <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2580176>
 [小野 蘭山自筆 天明8年(1788) 8枚 大きさ22.7×16.2cm (二つ折のまま計測)
 書名は巻頭による 未装 巻末に「天明戊申之冬朽匏子」と書入あり



巻頭

等之秘事有之候而、容易ニハ不被相伝事ニ候」
 (忙しくて山野に書生を連れ出して教える暇はな
 なかった。(中略) 漢名は秘伝であり容易に伝えて
 もらえなかった)と記す一方で、蘭山自身は「春
 秋ニハ山野ニ罷出、艸木を探り、虫石を尋ね、
 従者ニ示し、品物を見習ハしむ」と実地教育を
 行い、40歳迄は守ってきた師説も研究の進展や
 新規に渡来した薬品により名称が判明した結果、
 「古説之通りニ而ハ不相合事も有之候、依て疑問
 之人々日々ニ多く相成り、右之言訣、殆迷惑ニ
 及へり、此時ニ当りて堅く先説を守れハ、却而
 猶々謬之訾を免ざるニ似たり」と新知見を重視
 する姿勢を記すなど、蘭山の学問・教育上の考
 え方が示されており、重要な資料である¹⁹。

蘭山による陳扶揺『秘伝花鏡』講義を聞
 いた弟子による講義録も残されている。(9)
 『蘭山先生秘傳花鏡譯』2巻である。蘭山は天
 明2年(1782)3月4日から12月9日にかけて『秘
 伝花鏡』の講義を行った。この講義も中国書を
 日本語に翻訳する内容ではなく、『秘伝花鏡』
 の項目に従って、解説を加えたものであった。
 この講義に関しては、『秘伝花鏡会識』・『秘伝
 花鏡記聞』など数種の講義録が残されているが、
 『蘭山先生秘傳花鏡譯』もそのひとつである²⁰。
 「小野蘭山関係資料」中の本書は後に書写され
 たものである。後述する医学館の館主多紀元簡
 (1755-1810)の五男で、蘭山の弟子である多紀
 元堅(1795-1857)が所蔵していたものが小野
 家に伝わったものであり、「文化丙寅(3年(1806))
 仲秋念一日丹波元堅藏儲」とある。

さて、天明8年(1788)1月30日、京都は
 大火に見舞われ、衆芳軒も焼失する。蘭山は
 鞘屋町大仏正面下ルにあった弟子吉田立仙宅
 への寄寓を余儀なくされた。この大火は蘭山
 が「已狼狽^{はなはだ}」した大事件であったが、この
 ことにより「火後従学之士離散於四方者衆、而
 幸得少閑(火後、従学之士、四方に離散する
 者衆し、而して幸いに少閑を得)」た蘭山は、
 同年11月10日から同月26日にかけて、主と
 して本草に関わる六編の文章を記した²²。(8)

しゅうほうけんずいひつ

『衆芳軒隨筆』である。このなかには、たとえば「鶴ノ鳥」では、かつて白山・立山へ採葉に行った際に知った雷鳥の特徴を記し、「證類本草」では、『本草綱目』以前に有力な本草書であった『證類本草』（『經史証類備急本草』）と『本草綱目』を比較している。

その後蘭山は東洞院通丸太町下ル、続いて間之町通丸太町下ル大津町に転居し²³、そのいずれかで衆芳軒を再開するに至った。再開した衆芳軒でも『本草綱目』の講義や同書の校正などを手掛け、新たな弟子もとった。蘭山後の京都における本草学の中心人物となった山本亡羊や、常陸国の医家で後に水戸藩に仕えた木内政章はこの時期に入門した弟子である。

医学館時代

寛政10年（1798）10月、幕府は蘭山を医学館に招聘し、70歳の蘭山は承諾した。医学館館主多紀元徳（1732-1801、元簡の父）と若年寄堀田正敦の意向であったという。老齡のゆえ翌年の春に出府するよう命ぜられた蘭山は、同11年3月11日に京都を出立して江戸に向かった。この日から文化7年（1810）1月に没する直前までの日記が、(4)『小野蘭山公勤日記』である。出立当日は「寛政十一年己未三月十一日卯刻出門、到蹴上、休弓屋、送來者數十人、有留別詩、事畢東行（後略）」と記されている。京を去るにあたり数十人が蹴上まで見送りに来、茶店の弓屋で、留別の詩を詠み、江戸にむかって出立したのであった。医学館で蘭山は『本草綱目』の講義²⁴や薬園の管理などを行い、新たな門人も得た²⁵。日記にはそのすべてが記されている訳ではないが、大名との対面や、採葉旅行の行程、採葉した薬品名などの記事がみられる。江戸に下った後の蘭山の採葉旅行は6度にのぼるが、享和元年（1801）8月22日から10月3日にかけて、第2次にあたる甲斐・駿河・伊豆・相模への採葉旅行を終えた後の10月6日条には、次のようなエピソード

おのらんざんこうきんにつき

(4) [小野蘭山公勤日記]

<請求記号 WA1-10-4> <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2580147>

[小野蘭山] 自筆 寛政11年（1799）～文化7年（1810） 3冊 大きさ23.8～24.4×16.2～17.3cm

書名は仮に付す 包背装 第1冊表紙上書「寛政十一己未年京師発駕録／但享和辛酉年日附」、第2冊表紙上書「享和二壬戌年ヨリ／文化二乙丑迄／録」、第3冊表紙上書「文化三丙寅年ヨリ／文化七庚午年迄／録」 第2冊に挟込み1紙（「榛名山脇年寄／原田助之丞／小川半十郎」とあり）、第3冊に挟込み1紙（「御勘定奉行書付之覚」）あり



第1冊巻頭 寛政11年3月11日条 京都出立時の記事

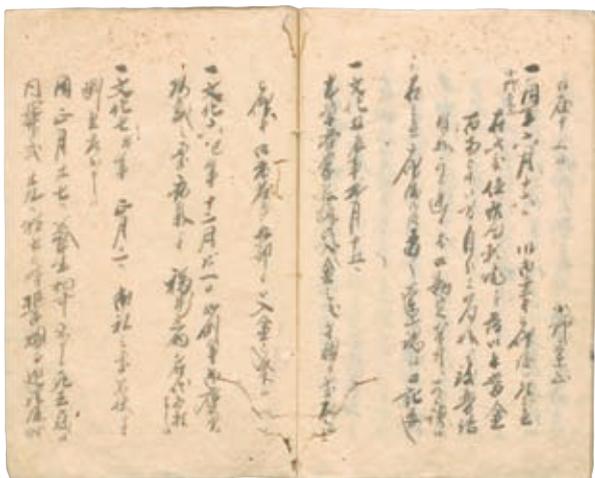


第1冊 享和元年10月6日条

ごようどめ
(5) 御用雷

<請求記号 WA1-10-5> <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9366477>
[小野蕙畝] 自筆 享和元年(1801)～文政4年(1821) 2冊 大きさ23.6～24.6×16.6～17.3cm

書名は書き外題による 第1冊：包背装 第2冊：仮綴 第1冊表紙上書「御用雷／享和元西年ヨリ／文化七年年迄」、第2冊表紙上書「御用雷／自文化七年年至文政二卯年／又自文政三辰年始／又文政四巳年」 虫損あり 第2冊に切紙4通綴じ込みあり



第1冊巻末 文化7年1月27日条(左) 蘭山死去時の記事

おのらんざんしよ
(2) [小野蘭山書]

<請求記号 WA1-10-2> <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/8942734>
[小野] 蘭山自筆 第1軸 文化7年(1810)、第2軸 享和2年(1802)、第3軸 江戸時代後期、第4軸 江戸時代後期 4軸 大きさ 第1軸 157.5×36.8cm(本紙25.5×19.3cm)、第2軸 165.9×34.3cm(本紙98.8×27.2cm)、第3軸 166.7×37.3cm(本紙114.8×30.2cm)、第4軸 175.8×43.7cm(本紙110.6×30.3cm)
書名は仮に付す 掛軸



第1軸

も載せられている²⁶。採薬旅行中、蘭山一行は、久能山で「先触之間違」に遭い、さらに「御薬園之間違」などにも遭って旅程に遅れが生じた。その事情を書面で提出するよう求められた蘭山は「此度之義処々役人中ニも間違有之候得者、書附差出候而ハ害を受候人も可多、氣之毒ニ候、兎角穩便ニ致度由佐一答申、返りて多紀公ニ申入候処、御同意ニ候、依之先自分の疎忽ニ取成候得ハ人ニ害も可無之(後略)」と記した。蘭山は、「佐一」(蘭山の孫養子蕙畝のことであろう)の意見に従い、役人の間違を自分の「疎忽」のせいとして庇い、穩便に済ませようとしたのである。このような記事からは蘭山や蕙畝の人柄を窺い知ることができよう。

この時期の蘭山の活動を探るにあたり、蘭山の日記を補完する内容を持つ資料として、蘭山の孫養子小野蕙畝²⁷(1774-1852)による公用の覚(5)『御用雷』がある。上冊は、享和元年(1801)4月7日、蘭山に従って常毛諸山を採薬した際の経費の記録に始まり、文化7年(1810)正月27日に蘭山が没して、同29日に誓願寺の塔頭迎接院に葬るまでを収める。なお、下冊は蘭山没後の蕙畝の活動が記されている²⁸。

さて、蘭山が江戸に下っておよそ10年を経た文化5年(1808)、80歳の賀宴が開かれた。その際に蘭山が自ら詠んだ詩と、翌文化6年蘭山が谷文晁(1763-1840)に描かせた肖像画を一軸に仕立てたものが、冒頭に示した(1)『蘭山翁畫像』である。

蘭山の詩には次のようにある。

東来倏忽十星霜 遲日新樓醉壽觴 三萬六千虧八九 猶思徒假數年長

詩は、江戸に出ておよそ10年を経、80歳となった感慨を述べたものであるが、「猶思徒假數年長」という結句から、人生の終盤を迎えてなお研究への情熱を失わない蘭山の思いを読み取ってもよいのかもしれない。肖像画は、文晁47歳の作である。文晁は蘭山の弟子でもあった。文晁は初め右面を写生したが、蘭山は気に

入らず、また左の肩の瘤はめでたいものであると人相見に言われたことがあることから、瘤を絵に入れるよう文晁に命じ、左面を写生させたといわれる²⁹。本草学者小野蘭山の風貌をよく伝えるものといえよう。

翌文化7年の正月をむかえた時、蘭山の体調は決してよくはなかったようである。『小野蘭山公勤日記』は正月二日に「(前略) 依所勞不致登城、諸家年礼皆不相勤」と登城できなかったことが記されている。これが最後の記事となり、同月27日に蘭山は没した。蕙畝は『御用留』に「同正月廿七日、養生相叶不申死去被致候、同葬式廿九日朝七時誓願寺迎接院へ納」と記している。

その直前に記された³⁰ 蘭山の書が「小野蘭山関係資料」に残されている。(2)『**小野蘭山書**』の第1軸である³¹。「夫濟世之道莫大於醫、去疾之功莫先於藥 八十二翁蘭山書」と記されている。「夫れ世を濟うの道、医より大なるはなし、疾を去るの功、薬に先んずるなし」と訓むのであろうか。本草学に一生をささげた蘭山に相応しい句と考えてよいのかもしれない。



以上、「小野蘭山関係資料」の概要を示してきた。蘭山の関係資料は、当館のほか公益財団法人東洋文庫、京都府立植物園、杏雨書屋、西尾市岩瀬文庫などに収蔵されている。他の機関で所蔵するコレクションには、当館のものよりも規模が大きいものなどもあるが、本資料群は近年まで小野家に伝存したものであり、内容的にも蘭山の本草学の根幹を知り得る自筆の講義稿『本草綱目草稿』、医学館勤務や採薬活動の実態を伝える自筆の『小野蘭山公勤日記』など、蘭山の人生における重要な事柄に関わる資料を多数含むことから、蘭山の生涯と学問を研究する上で基本的な資料群といえる。(利用者サービス部人文課・貴重書等指定委員会)

- 文化庁の報告は、文化庁文化財部「新指定の文化財」(文化庁文化財部監修『月刊文化財』、第一法規、平成27年6月)26~27頁参照。
- 小野強「小野蘭山関係資料国立国会図書館寄贈リスト」(小野蘭山没後二百年記念誌編集委員会編『小野蘭山』八坂書房、2010所収)により全体像が分かる。そのうち、古典籍資料室で所管する資料は書誌データの注記に「小野家旧蔵」「小野強氏寄贈」と入力されているのでNDL-OPACで検索が可能である。
- 文化庁は、分冊を単位として24点附1点と数えている。
- 小野強氏寄贈資料中の後代に作成された小野蘭山の関係資料や、小野強氏寄贈資料ではない小野蘭山自筆資料などは含まれない。
- 小野蘭山の年譜は、磯野直秀「小野蘭山年譜」(『日本博物誌総合年表』索引・資料編、2012、平凡社)が詳しい。そのほか本稿は前掲註2小野蘭山没後二百年記念誌編集委員会編『小野蘭山』、遠藤正治『本草学と洋学—小野蘭山学統の研究—』(思文閣出版、2003)などによるところ大である。
- 系図上は蘭山を職秀の子としているが、誤りと思われる。
- 本文の後に「當家庶流任叙之事」が掲載されており、そこには蘭山のことも記されているが、「二男 乙丸 同(享保)十四年八月廿一日生」と出生の記事のみである。
- 小野家の系図については、本系図やご子孫への聞き取りをもとに、遠藤正治氏が「小野家略系図」として整理している。前掲註5遠藤正治『本草学と洋学—小野蘭山学統の研究—』132頁。
- 花木・花草の種類、栽培法と、鳥・獣・魚・昆虫の飼育法を述べた書物。原本は、康熙27年(1688)刊。日本へは享保4年(1719)渡来、安永2年(1773)平賀源内校正『重刻秘伝花鏡』により和刻されているが、蘭山は漢籍を書写したのであろう。
- 白井光太郎「小野蘭山先生ノ伝」(『植物学雑誌』269号(「蘭山」記念号)、1909年6月)2頁。
- 早稲田大学図書館所蔵の服部南郭旧蔵本と比較すると、南郭が書入れた点と頭注の一部を書写したものと判明する。
- 前掲註5磯野直秀「小野蘭山年譜」による。兼葭堂は、詩文、書画、煎茶などをよくし、書画・典籍・博物標本・古銭・古器類等の収集家として知られ、その広い交流の記録『兼葭堂日記』を残した。
- 『本草綱目草稿』添付の「小野蘭山寛政七年書簡下書」による。
- 『本草綱目』は明の万曆24年(1596)に刊行された、中国の本草学史上を画する書籍で、江戸時代の本草学の基礎となった文献。
- 木村陽二郎「小野蘭山と『本草綱目啓蒙』」(小野蘭山『本草綱目啓蒙』1、平凡社(東洋文庫)、1991)26頁、平野満「小野蘭山の本草学と衆芳軒における門人指導」(前掲註2小野蘭山没後二百年記念誌編集委員会編『小野蘭山』所収)78頁による。
- 磯野直秀「小野蘭山の『本草綱目草稿』(『本草綱目』講義用覚書)」『参考書誌研究』64号、2006年3月)、高橋達明「蘭山の仏法僧—『本草綱目草稿』と講義本の編年をめぐって—」(前掲註2小野蘭山没後二百年記念誌編集委員会編『小野蘭山』所収)参照。
- 第1冊末尾部分に「宝曆七年丑十月七日夜了」とある。
- 前掲註16磯野直秀「小野蘭山の『本草綱目草稿』(『本草綱目』講義用覚書)」3頁。
- 磯野直秀・間島由美子「小野蘭山寛政七年書簡下書」:付「範塾軌」(『参考書誌研究』第63号、2005年)参照。
- 坂崎信之「蘭山にとって『秘伝花鏡』は何だったのか—特に耐寒性の弱い植物に関しての視点から—」(前掲註2小野蘭山没後二百年記念誌編集委員会編『小野蘭山』所収)参照。
- 「[京都大火につき覚]」(『衆芳軒随筆』のうち)による。
- 『鶴ノ鳥』『千歳菓』『側金盞花』『證類本草』『岐穂車前子』『京都大火につき覚』の6編。なお、『衆芳軒随筆』に続く随筆として、『水火魚禽考書』『南樓隨筆』があり、東洋文庫に自筆本が所蔵されている。これらの随筆については、磯野直秀「小野蘭山の随筆」(『慶應義塾大学日吉紀要』自然科学第34号、2003年9月)参照。
- 前掲註5磯野直秀「小野蘭山年譜」373頁によった。
- 蘭山の主著のひとつ『本草綱目啓蒙』48巻も医学館における第1回目の講義を、孫養子の蕙畝(後述)が筆記し、蘭山の考定を経て出版したものである。
- この時期に入門した著名な人物としては飯沼慾齋、岩崎灌園、多紀元堅、谷文晁らが挙げられる。
- 前掲註5遠藤正治『本草学と洋学—小野蘭山学統の研究—』93頁参照。
- 蕙畝は、蘭山が侍婢に産ませ、長谷川氏の養子となった長谷川有義の子で、名は職孝、通称刑部、佐一郎、字は士徳という。
- 文化7年(1810)4月5日に小野家の家督を相続する記事から、文政4年(1821)12月の小石川養生所出役までの記載がある。その間には、「御医師」への任命や扶持米のことだけでなく、文化8年に『本草綱目啓蒙』を再版した時の願書なども見える。なお、東洋文庫に「蕙畝日記」として文政5年以降の御用留や日記が所蔵されている。
- 平野敬義「先師蘭山小野夫子肖像之記」(『蘭山先生生卒考』[写本]所収)(当館請求記号W346-N7)
- 蘭山は文化7年1月27日に82歳で没しているため、同年の正月に記されたものと判明する。
- このほか第2軸は「方可待者薬也 七十四翁蘭山書」とある。これは享和2年(1802)の書である。第3軸・第4軸には「草緑三春雨楓丹一夜霜 蘭山書」とある。この2軸の年代は不明である。

国立国会図書館にない本（続編）

戦前・占領期の雑誌を求めて2

小林 昌樹
長尾 宗典

はじめに

当館の人文総合情報室のレファレンス・カウンターでは、「国立国会図書館にもない本はどこにあるか」といった質問を受けることが増えています。特に戦前・占領期の雑誌についてよく聞かれます。

そこで当室ではかねてより、他館における戦前・占領期雑誌コレクションの現状調査を行ってきました。今回は近畿地方の資料探訪をした際の報告でしたが（『国立国会図書館月報』640/641号（2014年7/8月号）に掲載）、その後、北海道、東北地方、中国地方（岡山県）を回りました。

北海道立図書館（江別市）：栗田文庫

事前調査で「ミステリーファンが国会図書館にない本を栗田文庫に見に行っている」との情報を得、平成26年9月、見学に伺いました。

北海道立図書館（以下、道立）には、大手取次・栗田出版販売（以下、栗田。現・大阪屋栗田）を興した栗田確也（1894-1977）氏が昭和38（1963）年以来数次にわたって寄贈した栗田文庫があります。これは昭和24（1949）年以来、栗田に届けられた出版物の、文字通りの「見本」を基にしたコレクションで、昭和30年代を中心に、栗田経由で販売された図書13万冊以上、雑誌30

万冊以上がジャンルを問わず収められています。

北海道民に、栗田文庫がひろく出版物を提供する役割を果たしてきたことは言うまでもありませんが、今回の探訪で、この文庫には当館における未収本がかなり含まれることがわかりました。昭和20～30年代は戦後納本制度の形成期にあたり、必ずしも当館への出版物納入率は高くありませんでした。そこでこの時期の図書や雑誌が当館にない場合、栗田文庫に求めることが可能です。栗田文庫に見出された貸本漫画（写真1）なども、当館で手薄なジャンルの一つです。また、全国に流通した本でも国立国会図書館にない欠本、欠号が見つかります。こうしたものは「ナショナル・コレクション¹」に相当すると言えるでしょう。

当館に所蔵する雑誌でも、栗田文庫では、「原裝保存」されているとわかったことも探訪の成果でした。長らく図書館界では、長期保存される逐次刊行物（新聞、雑誌）は何冊かまとめてきちんと製本するのが正しい、とされてきたのですが、製本された逐次刊行物は、背表紙（写真2）や、表紙・裏表紙ののど寄りにある「法定文字」（発行年月日や第三種郵便物の認可などの情報）が読めなくなってしまう。

雑誌付録が、冊子体でないようなものも含めて、手つかずで残っているのにも驚きました（写真3）。当館のレファレンス・カウンターで「雑誌が保存されているのだから、付録もあるのでは？」と聞かれることがありますが、残念ながらこうしたタ

イプの付録で利用できるものはほとんどありません。写真にあるように手つかずの付録がこれだけ組織立って保存されているのは、初めて見ました。

さらにこの時代の学習参考書、試験問題集、就職案内なども当館に比較的所蔵の少ないジャンルです（写真4）。

函館市中央図書館・八戸市立図書館

平成27年度は、9月に函館と八戸を回りました。

函館市中央図書館（以下、函館市立）は、岡田健蔵（1883-1944）が明治44（1909）年に始めた私立公共図書館が発展したものです（昭和3（1928）年に市立に移管）。



ここでも驚いたのは雑誌の付録でした（写真5）。それも戦前の児童雑誌、婦人雑誌の付録がこれまた手つかずで保存されているのに目をみはりました。栗田文庫は戦後のものでしたが、函館市立は戦前のものです。当館に所蔵のない戦前の雑誌の存在はある程度わかっていましたが、付録がここに大量に保存されていることは事前の情報ではわかりませんでした。

さらに、あらゆる紙物（チラシ、マッチラベル、すごろく、布告書など）（写真6）、写真資料（行政上の資料、個人寄贈のアルバム）を見つけました。現在は岡田が集めた絵葉書が着々とデジタル化されている最中でした。

これら戦前からの膨大な紙物、雑誌など消耗品的資料は、今まで函館・北海道の郷土資料として価値を見出されることはあり、活用されてきたよ



うですが、それだけではない、大きなポテンシャルを秘めているように見受けられます。

翌日、八戸市立図書館へも伺いました。ここは明治7（1874）年設置の八戸書籍縦覧所に淵源を持つ、日本でもとりわけ伝統のある公共図書館です（日本初の公共図書館とされる京都「集書院」は明治5（1872）年開設、明治6年開館）。

図書は洋書も含め、明治期の古いものもよく残っていますし、多くの郷土資料がきちんと組織化され、大震災や戦災による資料の損失もありません。百数十年間順調に発展してきた公共図書館だと感じました。ここでは書庫内で段ボールに入れられたままの業務資料（昭和30年代の読書会活動などの生写真）を発見し、大変興味深く拝見したのですが、紙物類はほとんどなく、雑誌も郷土資料の中に端本が少量散在するといったものでした。郷土雑誌などといったんは収集されたのかもしれませんが、帝国図書館における丙部（紙物類）や一部の新聞のように、一定期間後に除籍・廃棄されたのかもしれない。

八戸市立図書館を訪問することで、大震災や戦災がなくとも、公立の公共図書館には雑誌、紙物は保存されない傾向があると確認できました。「ない」ことの確認は難しいので、非常に有意義でした。

金光図書館（岡山県浅口市）

平成28年3月に、岡山県浅口市にある^{こんこう}金光図書館（写真7）を訪問しました。金光図書館は金光教が設立した図書館です。金光教関係の資料をはじめとして、点字資料や児童書を多数所蔵しています。戦前期の雑誌も充実しており（写真8）、同

館がウェブサイト上で紹介している所蔵雑誌の一覧²は、人文総合情報室の雑誌調査のレファレンス業務で活用しています。また、この一覧は、当館が作成する調べもの支援サイト、リサーチ・ナビのコンテンツとして、「人文リンク集」や調べ方案内「戦前期雑誌の所蔵機関」で紹介しています³。金光図書館は、昭和18（1943）年の創立ですが、所蔵している雑誌はそれよりも古い時期の発行のものが多く、なぜこのようにたくさんの雑誌を所蔵しているのか、不思議でした。

ご案内いただいた金光英子館長にこの疑問をぶつけたところ、金光教の教えでは、一つの問題を探求するときに様々な見方があることを重んじるため、一人一人がその時その時に必要な書物を買って読み比べることを大切にしてきたことを教えていただきました。

例えば、金光教は、明治32（1899）年に『令徳』という婦人雑誌の創刊・編集にあたり、当時発行されていた婦人雑誌を網羅的に集めて研究したのだそうです。そのときに集められた資料は金光教の信奉者の中で共有物として保存され、図書館を建設する際に寄贈されたとのこと。明治時代に出来た金光中学や金光教の各地の教会でも、同じように資料が蓄積され、金光図書館ができるたびに図書館に集められました。

複数の個人が集めていた雑誌類が金光図書館に入ってきた結果として、一大雑誌コレクションが形成され、国立国会図書館でも所蔵していない雑誌が見つかることがあるのだとわかりました。



写真7



写真8

さいごに

雑誌付録のように、保存すべきか否か迷うような境界的な資料の価値は、来館者から質問されて初めて気付かされることが多々あります。そうした資料は、国民の財産として残しておくべき「ナショナル・コレクション」の一端を担う可能性があると言えるでしょう。全国には、その候補がまだまだ残されているような気がします。

最後になりましたが、見学を受けていただいた各館のみなさまにお礼を申し上げます。

（こばやし まさき／ながお むねのり

利用者サービス部人文課）

1 「(出版物の) ナショナル・コレクション」という言葉は当館発行雑誌『カレントアウェアネス』にいくつか用例がありますが、用語集等に立項がないので、ここでは便宜的に、国民図書館（国立中央図書館）に現に集まっている資料の総体ではなく、国民がそこで集めてほしいと考える資料の総体と想定しています。

2 金光図書館所蔵雑誌一覧
<http://www.konkokyo.or.jp/konko-library/cont/database/zassi.htm>

3 人文リンク集>蔵書目録
<https://mavi.ndl.go.jp/humanities/entry/post-1.php>
調べ方案内「戦前期雑誌の所蔵機関」
https://mavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/post-737.php

布川文庫の有効活用をめざして

現在、東京本館人文総合情報室で提供している布川文庫は、日本出版学会初代会長を務めた布川角左衛門（1901-1996）氏が収集した出版関係コレクションです。布川文庫には、出版社の社史をはじめとして、編集、校正、装丁、印刷に関することから、出版流通、著作権、図書館に関する資料、さらにベストセラー本に至るまで多種多様な資料が収められています。

なかには、戦前の出版警察に関する資料や希少な雑誌の創刊号など、他機関では所蔵していない資料も含まれます。これらは出版の歴史を調べるための大きな手がかりとなるもので、当館が行う企画展示に出品したり、私自身も折に触れて本誌「今月の一冊」などでも紹介してきましたが、まだまだ一般には知られていないのか、十分に活用されていないと感じています。

コレクション資料を利用者の方に有効に活用していただくためには、私たち職員も、資料群についての知識が不可欠です。そのために、出版の歴史や図書館情報学がご専門の外部の有識者をお招きして、ご意見を伺う機会を設けてきました。そのなかでも、昨今のデジタル化の進展により資料へのアクセスが容易になるとともに、個々の図書館が持っている、そこにしかないユニークな資料がかえって脚光を浴びるようになったとのお指摘は、とくに印象に残りました。また、生前の布川氏を知る方から、布川



氏が御年 90 歳を超えてなお、出版界の新しい動向を把握するために、当時増えつつあったコンピュータ関係の本を注文されていたというお話を伺ったときには、襟を正されるような思いがしました。出版関係者の追悼文集など、関係者のみに配られるいわゆる「饅頭本」が多いことも、お話を伺うなかでわかってきた布川文庫の特徴です。布川氏がその本を持っていたことが、出版人の交流や戦後出版史の一端を物語るというわけです。

お話のなかで、もっとアクセスをしやすいしてほしいというご意見もいただいたので、平成 28 年 3 月に、リサーチ・ナビの調べ方案内「布川文庫」に所蔵図書リストの PDF ファイルを掲載しました。まだまだ手探りですが、よりたくさんの方に興味を持ってもらうための努力を続けていきたいと思っています。

（人文課人文第一係 青首大根）

What's 書誌調整

第6回 いろいろな資料

ふたたび



こんにちはワン! カーネ (CANE) です。

前回、近所の図書館へ行ったら、「日本十進分類法 (NDC)」の数字ごとに本が並んでいたけれど、本とは別に、音楽CDやDVDが置いてあるコーナーもあったよ。音楽CDやDVDも、図書館の目録で検索できるのかな?

先生 やあ、カーネ。図書館では、音楽CDやビデオ、DVDを「視聴覚資料」や「AV資料 (オーディオ・ビジュアル資料)」と呼ぶことが多いですね。もちろん、目録で探せますよ。試しに、国立国会図書館のNDL-OPACを見てみましょうか。

カーネ はい。じゃあ「詳細検索」の画面を開いてみよう。



カーネ 「視聴覚資料」や「AV資料」はないけれど、「資料種別」というエリアに「録音映像」のチェックボックスがあるようです。

この「資料種別」ってなんだろう…?

先生 「資料種別」とは、目録利用者に、資料の大きな種別を知らせるものです。

先生 たとえば、資料種別を選ばずにある映画をタイトルで検索すると、映画のDVDと、その原作の図書が両方ヒットすることがあります。そんなとき、「これは映像資料ですよ」、「これは図書ですよ」と知らせてくれるのが「資料種別」です。NDL-OPACでは、利用者にすぐ分かるように、検索結果一覧画面のアイコンや、書誌情報画面の一番上に表示されています。

No.	資料種別	タイトル	著者	出版者 / 出版年
1	録音映像	森崎書店の日々	八木沢里志 原作 ; 日向朝子 脚本・監督 ; 菊池亜希子 [ほか出演].	バンダイビジュアル, [2012.5]
2	図書	森崎書店の日々, 続	八木沢里志 著.	小学館, 2011.12.
3	図書	森崎書店の日々	八木沢里志 著.	小学館, 2010.9.

資料種別 録音映像 [映像資料] DVD

請求記号 YL321-J25802

タイトル 森崎書店の日々

タイトルよみ モリサキ ショテンノヒビ.

責任表示 八木沢里志 原作 ; 日向朝子 脚本・監督 ; 菊池亜希子 [ほか]

資料種別 図書 本

請求記号 KH694-J233

タイトル 森崎書店の日々

タイトルよみ モリサキ ショテンノヒビ.

責任表示 八木沢里志 著.

カーネ 「録音映像」のチェックボックスを選ぶと、
 区別して検索できるんだね。DVDの書誌データには、「録音映像」だけではなく、「映像資料」とも表示されているね。

先生 いいところに気が付きましたね！

紙の冊子体ではない資料や、冊子体であっても点字のような特殊な資料の書誌データには、「点字資料」「静止画資料」「映像資料」「録音資料」などといった、より詳細な資料種別が記録されています。

資料種別	図書	本
請求記号	Y17-N04-H735	
タイトル	花さかじいさん	
タイトルよみ	ハナサカ ジイサン	

資料種別	図書 [静止画資料]	紙芝居
請求記号	YKG1-H26	
タイトル	花さかじいさん	
タイトルよみ	ハナサカ ジイサン	
責任表示	照沼まりえ 文：四分一節子 イラスト	
出版事項	東京：永岡書店，2002	
形態/付属資料	紙芝居 1組 (16枚)：19×27cm	

先生 さらに、資料種別よりも詳細に、資料の媒体を知りたいときは、「形態」で確認することができます。この例では、資料種別は「静止画資料」ですが、形態は「紙芝居」です。

カーネ ほんとだ！ ここほれワンワン！

先生 「映像資料」の場合は、それがDVDなのかブルーレイディスクなのか、といったことが、「形態」に記録されています。

カーネ ぼくはブルーレイのプレーヤーを持っていないから、DVDじゃないと見られないワン…

先生 録音・映像資料や電子資料は、再生機器がないと利用できませんよね。資料を実際に手に取らなくても、書誌データを見れば情報が得られるように、媒体以外にもさまざまな情報が記

資料種別	録音映像 [映像資料] =
請求記号	YL321-L10693
タイトル	陽だまりハウスでマラソンを Back on track /
タイトルよみ	ヒダマリ ハウス デ マラソン オ
責任表示	キリアン・リートホーフ 監督・脚本；ディーター・ハ
出版事項	[東京]：『陽だまりハウス』パートナーズ；[東京]：
形態/付属資料	ビデオディスク 1枚 (115分)：DVD
注記	原タイトル: Sein letztes Rennen. 英語タイトル: Back on track.
注記	監督・脚本:キリアン・リートホーフ 出演:ディーター・ヤ・サイプト/ハイケ・マカッシュ/フレデリック・ラウ/
システム要件	カラー、ステレオ、シネスコ。 音声: 独 (5.1) 字幕: 日
日時・場所	2013年ドイツ作品
発売番号	BIBF-2852 (---)
価格等	3900円

録されていますよ。

たとえば「システム要件」の項目では、映像資料の色彩（モノクロ・カラーの別）、言語（音声・字幕）などがわかります。

カーネ ドイツ語の音声が入っているなら、ドイツのいとこといっしょに観られるからうれしいワン！

先生 CD-ROMやUSBのような電子資料だったら、再生するためのOSやソフトウェアなどの条件は、先ほどの「システム要件」という項目に記録されています。また、どのような内容が含まれているのかが、「テキスト・データ」「画像データ」「地図データ」「アプリケーション・プログラム」といった言葉で「電子的内容」という項目に記録されています。

内容といえば、どのアルバムに収録されているかは分からないけど、○○という曲を探したい、ということもありますよね。録音・映像資料の収録曲や各話タイトルは重要な情報ですから、「内容細目」に記録されています。内容細目は、NDL-OPACの「キーワード」で検索できますよ。



※いここです



先生

資料種別	録音映像 [録音資料] =
請求記号	YMC11-L26272
タイトル	ホロヴィッツ・オン・テレビジョン1968 Horowitz on television 1968 : a program taken from performances at Carnegie Hall for the CBS television network : アルティメイト・エディション /
タイトルよみ	ホロヴィッツ オン テレビジョン 1968.
責任表示	ウラディミール・ホロヴィッツ [演奏].
出版事項	[東京] : Sony Music Labels, 2015.12.
形態/付属資料	録音ディスク 3枚 (149分) : CD + DVD 1枚.
注記	Vladimir Horowitz historic return 50th anniversary.
システム要件	CD・SACDハイブリッド仕様. ライブ収録.
日時・場所	収録: 1968年1-2月 カーネギー・ホール (ニューヨーク)
内容細目	DISC1(ホロヴィッツ・オン・テレビジョン(最終編集発売版))<1>バラード第1番ト短調op.23(ショパン)<2>夜想曲第15番へ短調op.55の1(ショパン)<3>ポロネーズ第5番嬰へ短調op.44(ショパン)<4>ソナタホ長調K.380(L.23)(スカルラッチェ)<5>ソナタト長調K.55(L.335)(スカルラッチェ)<6>アラベスクハ長調op.18(シューマン)<7>練習曲嬰ニ短調op.8の12(スクリャーピン)<8>トロイメライ(「子供の情景」op.15、第7曲)(シューマン)<9>ビゼーの「カルメン」の主題による変奏曲(ホロヴィッツ) DISC2(1968年1月2日収録無修正版)<1>バラード第1番ト短調op.23(ショパン)<2>夜想曲第15番へ短調op.55の1(ショパン)<3>ポロネーズ第5番嬰へ短調op.44(ショパン)<4>ソナタホ長調K.380(L.23)(スカルラッチェ)<5>ソナタト長調K.55(L.335)(スカルラッチェ)<6>アラベスクハ長調op.18(シューマン)<7>練習曲嬰ニ短調op.8の12(スクリャーピン)<8>トロイメライ(「子供の情景」op.15、第7曲)(シューマン)<9>ビゼーの「カルメン」の主題による変奏曲(ホロヴィッツ) DISC3(1968年2月1日収録無修正版)<1>バラード第1番ト短調op.23(ショパン)<2>夜想曲第15番へ短調op.55の1(ショパン)<3>ポロネーズ第5番嬰へ短調op.44(ショパン)<4>ソナタホ長調K.380(L.23)(スカルラッチェ)<5>ソナタト長調K.55(L.335)(スカルラッチェ)<6>アラベスクハ長調op.18(シューマン)<7>練習曲嬰ニ短調op.8の12(スクリャーピン)<8>トロイメライ(「子供の情景」op.15、第7曲)(シューマン)<9>ビゼーの「カルメン」の主題による変奏曲(ホロヴィッツ)
発売番号	SICC-10235 (SONY CLASSICAL) SICC-10236 SICC-10237 SICC-10238

録音資料には、録音の仕様、ライブ収録かどうか、ライブ録音の収録月・収録場所なども記録されています。

カーネ すごーい。これだけ情報が盛りだくさんなら、探したい音楽CDやDVDを見つけやすそうですね！

先生 そうですね。でも書誌データだけでは区別しづらいこともあるのですよ。

よく、ジャケット違いや、付属資料が違う「通常盤」「初回限定盤」が同時に発売されたりしま

すが、残念ながら、ジャケットの色やデザインまでは書誌データに記録されません。収録曲や付属資料の媒体が同じだと、見分けにくい場合があります。

レコード会社は、別の商品にはそれぞれに違う「発売番号」を付けています¹ので、書誌データの「発売番号」や「注記」の項目も参考にして、資料を特定してください。

形態/付属資料	録音ディスク 1枚 : CD + DVD 1枚.
注記	初回生産限定盤, A type.
内容細目	(1)サヨナラマタナ(2)青春(3)チャンピオン
発売番号	SRCL-8819 (MASTERSIX FOUNDATION) SRCL-8820

カーネ なるほど、図書館にはいろいろな資料があって、それらを見分けるための情報が、書誌データにはたくさん詰まっているのですね。先生、今日もありがとうございました！

形態/付属資料	録音ディスク 1枚 : CD + DVD 1枚.
注記	初回生産限定盤, B type.
内容細目	(1)サヨナラマタナ(2)青春(3)チャンピオン
発売番号	SRCL-8821 (MASTERSIX FOUNDATION) SRCL-8822

(収集書誌部逐次刊行物・特別資料課 長嶺 悦子)

¹ 発売番号については、レコード会社や発売元のホームページに掲載されている商品情報などを参考にしてください。

関西館の地域連携を目指す取り組み

ビジネス情報月間「イノベーションについて考える」を中心に

はじめに：

けいはんな学研都市の発展とともに

国立国会図書館関西館は、関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）に位置しています。

けいはんな学研都市は、京都・大阪・奈良の3府県にまたがる緑豊かな丘陵地帯に作られた、約130もの研究所、大学、文化施設等が立地する地域です。

関西館は、平成14年の開館から10年以上経過した現在、改めて近隣の企業、研究所や住民の方々からご意見・ご要望を伺い、これらを踏まえたサービスの充実を図っています。その取り組みの一部をご紹介します。

ビジネス情報コーナーの設置

関西館の蔵書には、会社情報や各種の調査資料、専門誌・業界誌等の、ビジネスに役立つ資料が多く含まれています。また、新聞記事や学術論文、判例等、各種のデータベースも備えており、ビジネスの様々な場面で活用することが可能となっています。実際、来館者の方へのアンケートでは、ビジネス目的での来館が20%近く¹を占めています。

そこで、ビジネス上の課題の発見や解決に役立つことを明確にコンセプトとして打ち出し、経済・経営関係の書架スペースを2倍の広さに拡充、新たにビジネス情報コーナーを設置しました。その上で、これまで閉架だった

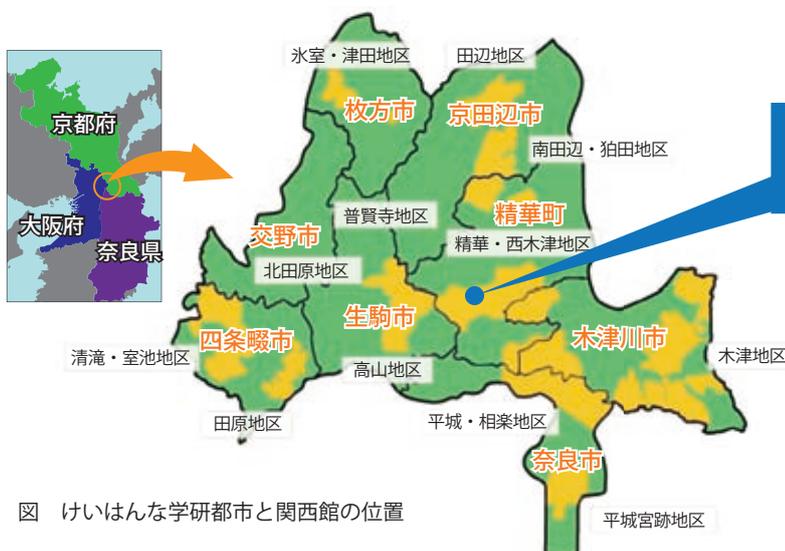


図 けいはんな学研都市と関西館の位置





ビジネス情報コーナー



松田一敬氏による講演



講演会後の交流会（情報交流サロン）

た各分野の新刊の概説書を閲覧室で直接手に取れるように配置する等、資料の配置や蔵書構築そのものの見直しを進めています。

ビジネス情報月間

平成28年2月には、「ビジネス情報月間—イノベーションについて考える—」を開催しました。これは日本政策金融公庫京都創業支援センターとの共催により実現したイベントで、講演会やセミナーの実施と合わせて関西館が所蔵する関連資料の展示を行いました。

① 講演会 「けいはんなから始まるオープンイノベーション」

同月23日には、大学発ベンチャー支援の国内の草分けである、SARR代表執行役員の松田一敬氏²を講師に迎え、「けいはんなから始まるオープンイノベーション」と題した講演会を行いました。仕事を終えた周辺企業の方が参加しやすい時間帯である18時から開始とし、オープンイノベーションというテーマにふさわしく、交流をコンセプトにした企画としました。

当日は講師の松田氏から、けいはんな学研都市でイノベーションを起こしていくために

はどのようなことがポイントとなってくるのかをご講演いただきました。イノベーションを促進する推進者である「アクセラレータ」の必要性、関係者全体を捉える見方、大学発ベンチャーへの投資についての留意点、国内のファンド設立の動向等、豊富な具体例を交えた話題提供がなされました。

その後には、総合閲覧室と情報交流サロンにおいて、参加者同士の交流会を行いました。参加者のみなさまからは、企業間の利害関係を越えた交流の場として様々な分野の人をつなぐ役割を果たしてほしい等、関西館に対して交流の場としての機能や、地域交流を促進するファシリテーターとしての機能の充実を期待する声が寄せられました。

② セミナー 「創業・経営計画とビジネス情報源 一次の展開を考えるあなたに—」

講演会に続き25日には、創業や経営改善を考えている方向けのセミナーを開催しました。外部講師として、日本政策金融公庫、京都府よろず支援拠点³（京都産業21）、楽天の方々、創業や経営改善、インターネットビジネスについてのお話をいただきました。その後、関西館から「ビジネスのための図書館活用術」と題し、創業・経営革新の

Innovation



セミナーの様子



パンフレットの展示

ためのビジネスプランの作成段階や、その後
に直面する課題への対処の段階等、ビジネス
の各段階で図書館の資料やデータベース等を
どのように活かせばよいか、具体的な資料や
データベース等の紹介を交えて話題提供をし
ました。

セミナーにおいても、ビジネス情報交換を
目的とした交流会を設けました。外部講師と
関西館の職員に、個別具体的な相談をしてい
ただけたほか、参加者相互の情報交換の機会
ともなりました。

③ 総合閲覧室におけるミニ展示

「イノベーションについて考える」

「イノベーションについて考える」をテー
マに、当館所蔵資料130点を選定した展示を
総合閲覧室で行いました。また、日本政策金
融公庫や京都産業21等、創業・第二創業・経
営革新をサポートする機関の発行するパンフ
レットを展示・配布しました。この展示は、
図書館で行われている、参考となる資料を紹
介する「レファレンスサービス」と専門機関
等を紹介する「レフェラルサービス」⁴を念

けいはんな学研都市コーナー

関西館のこうしたの取り組みのベースに
あるのは、近隣の立地施設や住民の方々か
ら伺ったさまざまなご意見・ご要望でした。
この4月には、総合閲覧室内にけいはんな
学研都市の歴史や企業・研究所等の研究活
動の概況等に関する資料を手にとることが
できる「けいはんな学研都市コーナー」を
新たに設けました。けいはんな学研都市に
関わる方々のつながりを生む場となると
ともに、けいはんな学研都市を訪れる方々が
けいはんな学研都市について知り、学べる
場となることを期待しています。





展示



ビジネス情報コーナー



頭に置いて企画しました⁵。

多くの来館者がパンフレット類を持ち帰られる姿が見受けられ、関西館でこのような課題を解決したいという潜在的な需要があるのではないかと実感しています。

おわりに

そのほか、ビジネスパーソンを意識した広報パンフレット⁶の作成や、けいはんな学研都市地域のイベント「けいはんなビジネスメッセ」への出展など、広報活動にも力を入れています。

ビジネス情報月間以外にも、知財セミナー「知財情報の活用とイノベーション」（平成27年12月11日開催。けいはんな知財組合⁷との共催）や、テーマ別ガイダンス「化学データベース Reaxys を使いこなす」（平成27年12月17日開催。エルゼビア・ジャパンに講師を依頼）を開催しました。

いずれも、けいはんな学研都市地域で活躍される研究者・研究機関のニーズを意識して企画したものです。これらのイベントには、けいはんな学研都市だけでなく、大阪市、尼崎市、西宮市、京都市、宇治市等の方々も参加してくださり、大型の調査情報図書館とし

て関西館を広域的に活用していただけることを再認識しました。

今後もみなさまとのつながりを大切にしながら、広域にサービスを提供する大規模な調査研究図書館として、個人の、あるいは社会の課題解決に資することができるよう、サービスの向上に努めていきたいと考えています。

（関西館文献提供課）

- 1 平成27年度来館利用者アンケート結果：関西館（PDF）
http://www.ndl.go.jp/aboutus/enquete/pdf/2_15enq_kansai.pdf
- 2 <http://www.sarr-llc.com/company/ceos-profile>
- 3 <https://www.ki21.jp/information/yorozu/>
- 4 「利用者の要求するテーマに関する情報の情報源（人、機関など）を知らせるサービス。単にレフェラルとも呼ばれる。他の図書館や類縁機関、専門団体や専門家への紹介等が挙げられる」（図書館用語辞典編集委員会編『最新図書館用語大辞典』（柏書房、2004）、p.572）
- 5 公共図書館の中には、「ビジネス支援サービス」として、①ビジネス関係の図書・雑誌・データベース等を一カ所に集めて「ビジネス支援コーナー」を作ること、②資料を利用する際に直面する困難に対して、図書館員が様々なレファレンスサービスを行うこと、③ビジネス情報の調べ方や基本文献を紹介するパンフレットの作成やウェブ上の公開を行うこと、④セミナーや個人相談会を開催すること、を行っているところがある。田村俊作「ビジネス支援サービス」田村俊作、小川俊彦編『公共図書館の論点整理』（勁草書房、2008）、p.35-58.のp.41-42.を参照。
- 6 「調査研究・ビジネスのための利用案内（関西館）（PDF）
http://www.ndl.go.jp/aboutus/outline/pdf/pamph_business.pdf
- 7 <http://khnipcon.jimdo.com/>

国際子ども図書館リニューアル記念講演会 イギリスの絵本作家 エミリー・グラヴェット —— 絵に生きる



エミリー・グラヴェット (Emily Gravett) さんは、その作品の高度な描画技術、独特な装幀・造本、意外性のあるストーリー展開等で国際的に高い評価を得ており、イギリスで権威あるケイト・グリーナウェイ賞¹を2回も受賞している絵本作家です²。平成28年2月、国際子ども図書館はイギリスからグラヴェットさんを招き、宮城県図書館、大阪府立中央図書館、大阪国際児童文学振興財団と協力して、講演会と関連イベントを実施しました。

2/21 東京 国際子ども図書館 講演会



グラヴェットさんは、自らの生き立ちと「絵を描くこと」との深い関わり、また絵本や読み聞かせの意義について、折々に描いた自作のイラストや絵本をスライドで紹介しながら語りました。また、最初の刊行作品『オオカミ』で試みたメタ・フィクションの手法や、手書きのイラストとスキャニングを組み合わせ合わせたコラージュの技法など、絵本製作の舞台裏を紹介してくれました。

終わりに、「大人が子どもに絵本を読み聞かせることで両者に対話が生まれる。子どもが1人で読書することを急かさず、長く読み聞かせをしてほしい、また、子どもたちは絵本を解釈したりせず、純粹に楽しんでほしい」と語りました。

2/24 宮城 せんだいメディアテーク 講演会

宮城県仙台市、せんだいメディアテークのオープンスクエアで開催された講演会には289名もの参加者がありました。講演中は、グラヴェットさんのお話や絵に感嘆の声や笑い声が上がり、温かな一体感が会場にあふれました。講演後、参加者を代表して、仙台在住の詩人の星乃ミミナさんが対談形式でグラヴェットさんに質問し、和やかな雰囲気の中で講演会は終了しました。



- 1 イギリスで1年間に出版された絵本のうち、特に優れた作品の画家に贈られる。3回受賞した作家はいない。
- 2 日本では『オオカミ』(原題:Wolves、小峰書店、2007)、『もっかい!』(原題:Again!、フレーベル館、2012)が既刊。来日後、『へんてこたまご』(原題:The Odd Egg)が4月にフレーベル館から刊行された。

2/25 宮城
荒浜小学校
交流イベント



宮城県亘理郡亘理町立荒浜小学校は、東日本大震災に伴う津波による甚大な被害を受けた荒浜地区にあります。イベントではまず、中学年と高学年の子どもたちによる同校伝統の和太鼓演奏と、民謡「えんころ節」でグラヴェットさんを歓迎しました。グラヴェットさんは、英語で自作の絵本を読み聞かせ、即興で絵を描き、たくさんのお話を聞かせてくれました。低学年の子どもたちは、グラヴェットさんと一緒に『Little Mouse's Big Book of Beasts』の本を鑑賞した後、主人公のネズミをかたどった帽子に細工をして、怪獣やお化けの帽子に変身させる工作を楽しみました。「どうしたら絵がうまくなるの?」という子どもからの質問に対しては、「毎日物を観察して絵を描く練習をし、頭の中に多くの絵の情報を蓄積することです」と答え、励ましていました。

大阪府立中央図書館では、講演会とワークショップを行いました。講演会の質疑応答では、グラヴェットさんの内面や創作姿勢に触れるような質問もあり、講演内容を深く掘り下げた充実したものとなりました。

2日目は、小学生を対象としたワークショップを行い、子どもたちは紙を綴じて冊子にし、自分で主人公のキャラクターを考え、3つの場面を持つ絵本を作りました。グラヴェットさんは子どもに寄り添い、創作を手助けしていました。最後に、できあがった作品を全員で鑑賞し、グラヴェットさんは作品1点ずつに丁寧にコメントを添えていました。

2/27 大阪
府立中央図書館
講演会



2/28 大阪
府立中央図書館
ワークショップ

グラヴェットさんにとって今回は初の来日でしたが、行く先々で多くの人の歓迎を受け、作品が国境を越えて多くの人々に受け入れられていることを実感しておられたようです。また同時に、宮城県を訪問したことにより、母国イギリスではあまり報道されていないという、東日本大震災で発生した津波による被害について実態を知る機会にもなったようです。流された家々の基礎が残る荒浜地区を眺めるグラヴェットさんの眼差しはたいへんに真摯なものでした。

国際子ども図書館はこれからも、ワークショップや講演会の開催を通じて、「子ども」と「子どもに本を手渡す大人」に対して、世界各国の子どもの本の魅力を伝える機会を積極的に提供していきます。

(国際子ども図書館企画協力課)

『参考書誌研究』第77号刊行 — 特集「日本占領関係資料収集の歩み」・ 『発禁図書函号目録』 —

国立国会図書館では、昭和45（1970）年より、主にレファレンス業務に携わる図書館員及び各分野の研究者の方々向けに、研究広報誌『参考書誌研究』を刊行しています。

本年3月25日刊行の第77号に掲載した主な記事について、その概要をご紹介します。



特集 日本占領関係資料収集の歩み

昭和53（1978）年、当館は、米国国立公文書館所蔵の「連合国最高司令官総司令部（GHQ/SCAP）文書」等の収集を目的とした「占領期資料収集プロジェクト」を開始しました。今日まで当館が派遣した米国駐在員は14代にわたり、かつてはマイクロフィルム、現在はデジタルデータで収集した膨大な資料を、順次公開しています。

掲載記事では、平成27年までの最近5年間の事業概要に続き、関係者の回顧談である「占領期資料収集プロジェクト研究会一初期を中心に」で、現在につながる収集業務の基礎を、米国の地で一から作り上げていった先人たちの労苦を明らかにしました。

これに加え、占領史研究の泰斗である天川晃横浜国立大学名誉教授による講演の記録「1970年前後の占領史研究とその周辺」を掲載することで、「占

領期資料収集プロジェクト」が開始されるに至る背景を、当時の当館及び国会の動き、さらには関係する研究者や学会等の動向を含めて、多面的な観点から探りました。

また、占領期のGHQによる検閲出版物のコレクションとして、米国メリーランド大学図書館所蔵のプランゲ文庫があります。こちらは、平成4年から共同事業として収集を開始しました。雑誌、新聞のマイクロ化収集ののち、現在は図書のデジタル化収集を行っています。

掲載記事では、平成27年2月に開催された、巽由佳子プランゲ文庫室長による「プランゲ・ネットワーク」と題する講演会の記録を掲載し、学内の研究ネットワークや、学外の機関等との連携状況を紹介しています。

星健一初代・5代米国駐在員
(平成3年10月)
(朝日新聞社提供)



国立国会図書館所蔵『発禁図書函号目録』安寧ノ部・風俗ノ部

当館は、戦前の言論弾圧の法的根拠となった「出版条例」(明治5年)および「出版法」(明治26年)等の下、内務省により発売頒布禁止、部分削除等の処分を受けた「発禁本」とよばれる資料を所蔵しています。

出版の3日前までに内務省に3部(後に2部)納本され、検閲により発禁処分を受けた出版物は、内務省の書庫に保管されていました。

しかし、大正12(1923)年の関東大震災でその書庫が焼失したことにより、分散管理の必要性が認識され、処分を受けた出版物は1部ずつ、昭和12(1937)年6月から昭和17(1942)年7月にかけて、当館の前身である帝国図書館に移管されました。安寧秩序紊乱と風俗壊乱の理由別に、前者は「禁安」で始まる函号と番号(画像参照)、後者は「禁風」で始まる函号と番号を付与。「安寧ノ部」及び「風俗ノ部」の2冊の受入簿を作成し、厳重に保管されて利用には供されませんでした。

戦後これらの資料は、順次利用に供されたものの、これまで全容については明

らかになっていませんでした。

今回収載した「国立国会図書館所蔵『発禁図書函号目録』安寧ノ部・風俗ノ部」では、この2冊の受入簿をもとにリスト化することで全容を明らかにし、それに加え、各資料の現在の請求記号とデジタルコレクションのURL等を記載してあります。

この他当館では、「禁函」とよばれていた、一旦は帝国図書館の資料として利用に供し、その後内務省から発禁本の指定を受けて閲覧禁止となった資料を所蔵しています。『参考書誌研究』第73号収載の「受入後に発禁となり閲覧制限された図書に関する調査—戦前の出版法制下の旧帝国図書館における例—」と併せてご覧いただくことで、帝国図書館から当館へと引き継がれた「発禁本」を概観することができます。
(利用者サービス部)



『蟹工船』(小林多喜二著 戦旗社 昭和4)
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1134090>
右上に、鉛筆で函号「禁安1」および番号「80」が記載されているほか、帝国図書館の蔵書印、内務省からの移管印、再整理の際の受入印がある。

『参考書誌研究』は、刊行後一定の期間(約半年以上)経過したものを、PDF化してリサーチ・ナビに掲載しています。

○リサーチ・ナビ「参考書誌研究」 <https://rnavi.ndl.go.jp/bibliography/>

冊子版の入手をご希望の方は、以下までお問い合わせください。

○75号(2011年9月発行)まで

公益社団法人日本図書館協会 〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話:03(3523)0812

○76号(2015年3月発行)以降

勉誠出版株式会社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10-2 共立ビル7F 電話:03(5215)9021

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

○型ロボット漫画

清水正 監修 日本大学芸術学部図書館 刊
2014.12 287p 27cm <請求記号 KC486-L160>

日本大学芸術学部図書館から刊行された本書は、「日本の漫画家シリーズ」の第3弾にあたり、同学部の資料館で開催された企画展に関連し出版された本です。

『○型ロボット漫画』は「マルガタロボットマンガ」と読み、「○（まる）」い形状を持つロボットが活躍する漫画を意味します。本書では、阪本^{がじょう}牙城の『タンク・タンクロー』（昭和9（1934）年連載開始）、森田拳次の『丸出だめ夫』（昭和39（1964）年連載開始）、藤子・F・不二雄の『ドラえもん』（昭和45（1970）年連載開始）の3作品を取り上げ、関連する資料や論考を掲載しています。

現在でもアニメが放映されている『ドラえもん』は知っているけれど、他の2作品は……という方もいらっしゃるでしょう。私も本書で初めて『タンク・タンクロー』と『丸出だめ夫』を知りました。しかし、この2作品については年譜等多くの情報が掲載されているので、つまづくことなく本書を読み進められます。特に原画や作品の一部、表紙等のビジュアル情報が充実しており、ロボットたちのその形状、○型っぽりが十分にわかるようになっています。

前半の論考では、本書のキーポイントである「○」は、象徴的にゼロ、幸福、完全性、無限、母性などの意味を有していると述べられています。

この点を踏まえて各作品についての考察が続きます。『タンク・タンクロー』の主人公、タンク・タ

ンクローは「丸い」体に「無限」の空間を有しています。これは『ドラえもん』のドラえもんも同じです。一方『丸出だめ夫』では、主人公だめ夫の父親が作ったロボット「ボロット」が、だめ夫の母親的存在となり、父子家庭ならではの子どもの心の隙間を埋めているといえます（なお、ボロットは横から見ると四角ですが、頭も体も円柱形で頭上から見ると「◎」になります）。このように、異なる時代に異なる作家によって描かれた3作品全てに「○」とその象徴的な意味が内包されていることが指摘されています。



本書の特筆すべき点は、多くの執筆者の多様な論考が掲載されているという点です。同学部の教授陣、エッセイスト、漫画評論家といった面々による論考16編、同大学のマンガ論受講生によるレポート54編が、それぞれ個性的な切り口で各作品を考察しています。例えば、写真学科教授による「ドラえもんのカメラ分析」は『ドラえもん』に登場するカメラ系のひみつ道具やレンズとしてのドラえもんの眼にスポットをあてた写真学科ならではの論考です。その他にもデザイン学科教授による「ドラえもんは虫である」といった思いもよらない視点の論考等が数多く掲載されています。各々が得意分野において自由に作品を論じている点が非常に面白い1冊です。

（独立行政法人工業所有権情報・研修館

知財情報部（平成28年4月から出向中） おおば よしの
大場 由野

「第四期国立国会図書館 科学技術情報整備基本 計画」の策定

平成28年3月、国立国会図書館は、今後5年間（平成28年度～平成32年度）で科学技術情報整備のために取り組むべき事項をまとめた「第四期国立国会図書館科学技術情報整備基本計画」（以下「第四期計画」という。）を策定した。この計画は、平成27年12月14日に開催された第7回科学技術情報整備審議会（委員長（当時）：安西祐一郎日本学術振興会理事長）において国立国会図書館長に提出された「イノベーションを支える『知識インフラ』の深化のための提言～第四期科学技術情報整備基本計画策定に向けて～」(本誌659(2016年3月)号p.30「第7回科学技術情報整備審議会」を参照)を受けて、策定したものである。

第四期計画は、前の計画である「第三期科学技術情報整備基本計画」（本誌610(2012年1月)号pp.23-27「『知識インフラ』の構築に向けて『第三期科学技術情報整備基本計画』の策定」参照）において国立国会図書館が構築に積極的に関与することとした国全体としての新しい学術情報基盤である「知識インフラ」について、他機関との連携・協力の下、その深化を図ることを目的としており、国立国会図書館が取り組むべき事項を(1)恒久的保存のための取組と(2)利活用促進のための取組の大きな二つの柱に分けて掲げている。

第四期計画の全文は、国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 国立国会図書館について > 科学技術情報整備 > 科学技術情報整備に関連する諸計画 (<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/tech/plan.html>) に掲載している。



お知らせ

■ 利用者アンケート ご協力をお願い

国立国会図書館が提供する各種のサービスを改善するために、次のとおりアンケートを実施します。

■ 国立国会図書館ホームページアンケート

国立国会図書館ホームページを利用されている方々を対象としたアンケートです。あわせて、当館ホームページから利用できる各コンテンツ（国会会議録検索システム、リサーチ・ナビ、国立国会図書館デジタルコレクション等）についてのアンケートも実施します。以下のアンケートページから皆様のご意見をお聞かせください。アンケートページでは、過去のアンケートの結果、分析などもご覧いただけます。

○アンケートページ URL <http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/enquete/index.html>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

>国立国会図書館について>利用者アンケート

○実施期間 6月20日（月）～9月23日（金）

■ 図書館アンケート

国内の図書館等を対象としたアンケートです。「図書館及び関連組織のための国際標準識別子（ISIL）」に登録している図書館等のうち、約1,300館に対して、7月に調査票をお送りする予定です。ご協力をお願いいたします。

○問合せ先

国立国会図書館 総務部 企画課 評価係

電子メール hyoka@ndl.go.jp



お知らせ

■ 平成28年度全国書誌データ・レファレンス協同データベース活用研修会のご案内

公共図書館、学校図書館等の職員を主な対象とし、平成28年度全国書誌データ・レファレンス協同データベース活用研修会を開催します。この研修会では、国立国会図書館が提供している全国書誌データをご利用いただくための具体的な方法と、レファレンス協同データベース事業の概要や事業に参加する利点をまとめて知ることができます。ワークショップ等を通じて、受講者の方に全国書誌データを用いた文献リスト作成や、レファレンス協同データベースへのデータ登録等を体験していただきます。

○東京本館会場

日時：8月5日（金）13：00～17：00（12：30から受付開始）

会場：国立国会図書館東京本館 新館3階大会議室

定員：30名

申込締切：7月29日（金）

○関西館会場

日時：8月19日（金）13：00～17：00（12：30から受付開始）

会場：国立国会図書館関西館 1階第1研修室

定員：30名

申込締切：8月12日（金）

内容の詳細および申込方法は、次のレファレンス協同データベースのページをご覧ください。なお、先着順に受け付け、定員に達した時点で募集を終了します。

http://crd.ndl.go.jp/jp/library/guidance_03.html

○問合せ先

国立国会図書館 関西館 図書館協力課 協力ネットワーク係

電話 0774 (98) 1475 FAX 0774 (94) 9117

電子メール info-crd@ndl.go.jp

お知らせ

■ 本の万華鏡（第22回） 「日本の囲碁—白と黒の戦い—」



ミニ電子展示会「本の万華鏡」第22回「日本の囲碁—白と黒の戦い—」では、日本で古くから親しまれ、現代でも話題に事欠かない囲碁をテーマに、関連した本を取り上げます。

囲碁は古くから、様々な文学作品に登場してきました。囲碁の名人の伝説的な逸話が『今昔物語集』に残り、『源氏物語』や『枕草子』に囲碁が登場する場面が描かれ、日記などの古記録にも対局の様子が書き残されています。

やがて囲碁を生業とする人々が登場し、江戸時代には本因坊家など4つの家が家元とされ、しのぎを削る戦いが繰り広げられました。その後江戸幕府が崩壊し、家元制度は終焉を迎えます。また、近代以降の囲碁界の移り変わりについてもご紹介します。

碁・将棋の対局での手順を記録したものを棋譜とよびます。著名人の中には、囲碁をたしなむ人物も多く、徳川家光や徳川慶喜の棋譜も残っています。これらをはじめとした様々な名対局の棋譜や、国内外の囲碁の解説書もぜひご覧ください。

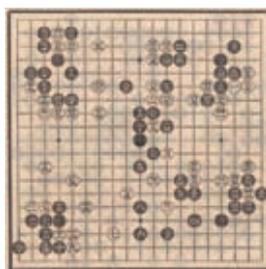
またコラムでは、川端康成の小説『名人』のモデルとなった最後の世襲本因坊である本因坊秀哉の引退碁について対戦相手の木谷実が記した棋譜のほか、囲碁の普及に大きく貢献した棋士・瀬越憲作の旧蔵書についてご紹介します。

国立国会図書館の所蔵資料を通じて、囲碁の歴史に触れてみてください。

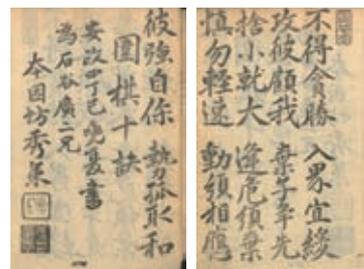
○URL <http://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/22/>



『源氏物語』から、帝と中納言源薫の対局の場面
世尊寺伊房 詞書・藤原隆能 画『源氏物語絵巻』



徳川慶喜の棋譜
高崎泰策 著・安藤豊次 編『泰策集』 関西囲碁会 大正元（1912）



將軍の御前で行われる対局「御城碁」で19戦19勝した本因坊秀策の揮毫による「碁十訣」
石谷広策 編『敲玉余韻』石谷広策 明治30（1897）

お知らせ

■ 国際子ども図書館展示会「世界のバリアフリー絵本展 2015—国際児童図書評議会 2015年推薦図書展」



2013年展示会の様子

国際子ども図書館では、8月16日から「世界のバリアフリー絵本展2015—国際児童図書評議会2015年推薦図書展」を開催します。

国際児童図書評議会（IBBY）障害児図書資料センターでは2年に一度、世界中から収集した障害児の読書を支援する書籍の中から、特に優れた作品数十冊を選び、推薦図書リスト“Outstanding books for young people with disabilities”を刊行しています。

今回の展示会では、2015年の推薦図書リストに収録された、手話付き絵本、さわる絵本、やさしく読める本、障害が描かれている本など、世界21か国から選ばれた50作品を手にとりご自由にご覧いただけます。

入場は無料です。ご来場をお待ちしています。

- | | |
|-------|-------------------------------------|
| ○開催期間 | 8月16日（火）～9月4日（日）
月曜日、8月17日（水）は休館 |
| ○開催時間 | 9：30～17：00 |
| ○会場 | 国際子ども図書館 レンガ棟3階 本のミュージアム |

○問合せ先

国立国会図書館 国際子ども図書館 資料情報課 展示係

電話 03（3827）2053（代表）

お知らせ

■ 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 784号 A4 56頁 月刊 1,000円(税別) 発売 日本図書館協会
生活保護制度の現状と課題
米英独仏におけるヘイトスピーチ規制
消費税率8%への引上げ後の地方経済の状況—青森県を例として— (現地調査
報告)

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03(3523)0812

CONTENTS

- 02 <Book of the month - from NDL collections>
Senji gaho: a pictorial newspaper for Japanese speakers, published in the UK by the British Government during the World War I
- 04 Material recently designated as a national important cultural property 51st committee on designation of rare books
 Materials on Ono Ranzan
- 12 Books not found in the NDL: in search of periodicals from pre-war period to the Occupation (2)
- 17 What's bibliographic control? Revisited (6): a wide variety of materials
- 20 Activities of the Kansai-kan for promoting regional cooperation
 Business Information Month, focusing on innovation
- 16 <Tidbits of information on NDL>
 Making more effective use of the Nunokawa Collection
- 24 TOPIC
 ○Lecture at the International Library of Children's Literature: "Emily Gravett - Living in Pictures"
 ○Publication of the 77th issue of the Reference Service and Bibliography: "History of microfilming/digitizing materials on the Allied Occupation of Japan located in the United States" and a list of banned books in the collection of the NDL
- 28 <Books not commercially available>
 ○*Marugata robotto manga*
- 29 NDL NEWS
 ○Formulation of the NDL Forth Basic Plan for the Development of Science and Technology Information
- 30 <Announcements>
 ○Call for participation in the user questionnaire survey
 ○FY2016 training program on the National Bibliographic Data and the Collaborative Reference Database
 ○Kaleidoscope of Books (22) "Japanese Go: a board game of white and black stones"
 ○Exhibition at the International Library of Children's Literature "Barrier-free Picture Books from Around the World - IBBY Outstanding Books for Young People with Disabilities 2015"
 ○Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成28年7月号 (No.663)

平成28年7月1日発行

発行所 国立国会図書館

編集者 秋山勉

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
 電話 03 (3581) 2331 (代表)
 F A X 03 (3597) 5617
 E-mail geppo@ndl.go.jp

印刷所 株式会社丸井工文社

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
 本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
 本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



『新選京都名所 三木翠山創作版画 第2集』から
「加茂川の夕立」
三木翠山 [作] 佐藤章太郎商店 編 佐藤章太郎商店
大正14 (1925) 年 1冊 44cm
「国立国会図書館デジタルコレクション」でご覧になれます
(モノクロ画像)
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1014915/11>

国立国会図書館月報

平成28年7月1日発行 (毎月1回1日発行)
(7月号通巻663号)